

令和6年度第1回  
第4次武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会  
会 議 要 録

「要録 ですます調」  
40字40行

令和6年6月12日（水）

社会福祉法人 武蔵野市民社会福祉協議会

---

日 時 令和6年6月12日（水）午後6時半から午後8時40分  
会 場 武蔵野市民社会福祉協議会 会議室  
出席委員 宇田川みち子、大屋朋代、川鍋和代、熊田博喜、田中邦忠、千種豊、深田榮一、福山和彦  
事務局 福島常務理事、田村事務局長、三藤係長、岡田係長、木原主任、林主任、後藤主事

---

（午後6時半 開会）

## 1 開会

○**事務局長** 令和6年度第1回第4次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第4次活動計画」）推進委員会を開催いたします。令和2年度から第4次活動計画の振り返りや進捗管理として本委員会を開催しています。みなさまには委員として携わっていただき、毎回活発にご議論いただきありがとうございます。本日をもって、推進委員会は最後となります。みなさまよりいただいた意見をもとに、事務局でまとめた報告書の内容を確認いただくとともに、第5次武蔵野市民地域福祉活動計画（以下「第5次活動計画」）に向けて、お話しいただければと思います。

## 2 委員長挨拶

○**委員長** 今事務局からも話があったとおり、本日で推進委員会は最後となります。そう考えますと、第4次活動計画が終わりを迎えるということですが、改めて2019年から2024年までの6年を振り返ると、1年目は通常運転でしたが、そのあと、新型コロナウイルス感染症の影響があり、大変厳しい時期を乗り越える計画であったというのが一番の印象です。とは言え、この6年間で何ができて、それを次の第5次活動計画にどうつなげていくかを本日ご意見いただきたいと思います。

早速議事に移りますが、まずは、第4次武蔵野市民地域福祉活動計画6年間のふりかえり報告書（以下「ふりかえり報告書」）をまとめていただいていますので、こちらの内容について、事務局から説明をお願いします。

## 3 議事

### （1）第4次武蔵野市民地域福祉活動計画6年間のふりかえり報告書（2019～2024） （以下「ふりかえり報告書」）の内容確認について ※別紙1参照

○**事務局** ふりかえり報告書の作成にあたり、推進委員のみなさまには、事前にコメントをいただくなど、ご協力いただきありがとうございます。その際に内容をご確認いただいていますので、詳細についての説明は割愛します。はじめに、基本目標について報告します。基本目標は「地域をささえる人づくり」「人がつながる地域づくり」「たすけあいのしくみづくり」と大きく3つの章で構成しています。まず、「1 地域をささえる人づくり」は、（1）～（3）のテーマに基づき、6年間で取り組んでまいりました。このテーマのキーワードは、「情報発信」や「新しい担い手の発掘」です。これらのキーワードが上がった背景として、地域社協をはじめとする地域団体

の高齢化などの理由があり、それぞれが新しい担い手探しに向けた検討や取り組みを行いました。たとえば、若い人が得やすい情報発信の開拓を目的に、11の地域社協では、X（旧「Twitter」）のアカウントを作成したり、市民社協でも6年度よりInstagramを開設するなど、SNSによる情報発信に取り組みました。ほかにも、紙媒体の広報紙のデザインを見直した地域社協もありました。また、これまで新しい担い手の対象として「若い人」に注目していましたが、若い人に限らず、転入者や60歳代の参加など、新しい担い手の対象を見直しました。このテーマに関する課題として、評価方法への意見が推進委員会でありました。たとえば、「（1）地域の福祉情報・ボランティア情報を分かりやすく発信する」において、アンケートの指標を評価の基準に盛り込みました。市のアンケート調査では、満足度がいずれも50%を達成できなかった一方で、実際に地域で活動している方から、「ふれあいに記事が掲載されて声をかけてもらった」「わかりやすくなった」という声もいただいています。推進委員会の中で、次回の計画では、評価方法をどうするかという点も焦点になるのではないかという意見がありました。また、地域活動への参加動機として、「楽しい」ということが動機になる方も多く、受け入れる側は戦略が必要であるという意見もあります。最後に、コロナ禍で表面化したオンラインへの取り組みとして、ハイブリッド開催を導入した会議がいくつかありますが、このようなオンラインの活用などについても、今後の課題となるのではないかと思います。

2点目は、7ページから12ページの「人がつながる地域づくり」です。（4）から（6）のテーマが取り組む対象です。こちらでは、「住民同士・団体同士の横のつながり」がキーワードになると思います。実際に6年間の取り組みとして、地域の中で、「丁目活動」等の近所のつどいや防災や防犯等のテーマ型の取り組みや、オンラインや手紙を活用してやり取りをした等、コロナ禍で会えない期間にも、どうにかしてつながりを継続しようと工夫された取り組みがありました。また、専門機関の連携として、武蔵野市の福祉総合相談窓口主催で、庁内の相談機関が集まる総合支援調整会議がありますが、市民社協でも地域担当職員の機能拡充に伴い、この会議に参加しています。このような取り組みを振り返る中で、推進委員のみなさまからは、今後に向けた提案として、趣味や文化的な活動をする人が多い武蔵野市らしい居場所づくりとして、趣味・文化的要素と福祉活動を絡めたような取り組みができないかという意見がありました。また、「（6）人や団体をつなげる」の推進委員からのメッセージでは、「オンラインスキルを習得する講座を継続することで若い世代とシニア層の交流が生まれていることが良い」というコメントをいただいているように、世代間交流に関する取り組みもポイントになると思います。このほか、総合支援調整会議のなかで複合的な課題への取り組みがされていますが、推進委員のみなさまから「地域と関係機関との連携がなされると良い」との意見をいただきました。

3点目の「たすけあいのしくみづくり」では、地域内の孤立への支援や地域活動をささえる市民社協の取り組みに関する意見をいただきました。地域内の孤立を防ぐためのつながりづくりとして、地域では、「サロン」や「丁目活動」、「居場所づくり活動」などの日頃から顔見知りをつくる活動が行われましたし、市民社協では、日常生活で立ち寄りそうな場所に向いて相談を受ける出張相談を「ちょこっと出先で生活

相談」という名称で開始しました。推進委員のみなさまからは、普段と様子が違っていたり、支援の必要がある場合に把握する機会のある市民との日常的な連携について意見をいただきましたので、今後の連携がポイントとなると思います。最後に、財源確保に向けた取り組みとして、市民社協では、社協会員の拡大に向けて、ゆうちょ銀行口座を新規開設したり、インターネット上からクレジットカード払い等で会費や寄付を納入いただけるプラットフォームサービスの活用を進めてまいりました。社協会員数が少しずつ減少傾向にあるなかで、どのように市民に会員制度を理解いただくかは今後の課題であると思います。

続きまして、16ページ以降の重点的な取り組みについて、項目ごとに要点をまとめて報告いたします。はじめに（1）居場所づくりの展開について、「①既存の建物などを有効活用している場所が増える」という項目では、地域支援課等の市の関係課と活動場所不足について共有したこと、身近な地域の居場所づくり助成事業の見直しを行い、有料でも既存の場所を活用できるよう会場費加算を新設したことを取り上げました。今後活動を実施する際の課題として、市民社協で取り組みを行う場合の方法や手順について、「コミセン等既存の場の活用」「空き家対策」「集合住宅や福祉施設の建設段階からのアプローチ」「店舗等への働きかけ」と4点の項目を踏まえて、市の担当者や関係団体と協議をして進めていきたいと考えています。「②運営の担い手が増える」については、助成事業開始5周年を踏まえて、立ち上げ事例を紹介する報告書「居場所のチカラ」や助成事業紹介動画を作成して、広くPRをしました。本件に関する課題として、コロナ禍で休止した居場所づくり学習会・交流会の再開やテーマ型で集まる居場所のニーズについての検討を挙げました。特にテーマ型で集まる居場所については推進委員会でも意見いただいた項目であり、今後のポイントになると思います。

続いて、（2）さまざまな相談の場と機能の充実について説明します。「①相談機関やサービス、地域資源などの情報を多くの市民が把握し、他の人に伝える役割を果たす」では、地域団体に各種会合において、関係機関からの情報提供の場を設けていただきました。5つの会合の例を、ふりかえり報告書に記載しています。市民社協としては、基本目標でも取り上げた出張相談について、地域社協のエリアごとに相談の場を設けて、説明やPRを行っています。また、地域社協や民生児童委員、赤十字奉仕団、保護司等の団体の会合でも活動のPRをさせていただきました。今後の課題としては、地域活動を行っている市民や関係機関の情報やサービス等を把握し、他の人に伝えられるよう情報提供のしくみを整えていくこと、既存の居場所運営団体の研修を開催することを挙げています。

3番目の（3）地域社協の発展について、「②地域社協の活動の魅力を発信できている」では、11の地域がXを開設するとともに、ほとんどの地域が広報紙の発行を継続しています。併せて、市民社協では地域社協運営委員研修に継続して取り組みました。各テーマはふりかえり報告書に記載のとおりですが、広報系のテーマを多く取り上げ、特にSNSの活用について広くお伝えしました。今後の課題として、地域社協ではXによる継続的な情報発信、また地域内の掲示板の設置場所を拡大していくことを挙げています。市民社協では、地域社協が情報発信する際に、更新頻度を上げられるような支

援をしていくこと、また地域社協を含めたボランティア団体等のPRを目的としたプロモーションビデオの作成も検討していきたいと考えています。次の20ページ記載の「④支援を必要とする人をサポートする取り組みが行われている」に対して、市民社協では、生活上の困りごとに対してボランティアを紹介して支援する「ねこの手ボランティア」や地域担当職員の役割や機能の整理に取り組みました。今後の課題は、他の地域団体との事業の連携、「ねこの手ボランティア」を踏まえた独自の活動の在り方を検討する際に、個別支援の方法についても検討していく必要があるとの意見がありました。また、引き続き地域担当職員の役割や機能の拡充についても検討していきたいと考えています。

最後に22ページの「(4) 地域福祉コーディネーター(仮称)の役割や機能の整理」について説明します。地域担当職員が各機関と連携しながら果たす4つの役割については、第4次活動計画でも6年後の目指す姿として記載しており、「①サービスや支援につなぐ」「②孤立している人を地域住民につなぐ」「③地域の課題を共に考える場をつくる」「④解決の仕組みをつくる」という4つの機能を検討してきました。このことに対し、市民社協としては、次の4点について取り組みました。1点目は地域福祉コーディネーター(仮称)機能に関する関係機関へのヒアリング調査です。2点目に地域福祉コーディネーター立ち上げ検討委員会を設置し、関係機関の方々と共に、今後の機能について検討しました。3点目は先ほども紹介しました「ちょこっと出先で生活相談」を開始したことです。4点目が他の業務と兼務ではありますが、市民社協の既存の人員体制の中で、兼務により地域担当職員の体制を強化し、令和6年度は6名体制としています。今後の課題としては、地域担当職員の機能の拡充と全職員間での情報共有の充実化を挙げています。どこに相談したらよいかわからない方を相談機関につなげることや、地域活動を支援する地域担当職員の機能を検討し、充実させていきたいと考えています。重点的な取り組みについては以上です。

基本目標から重点的な取り組みを通して、推進委員会でのコメントをもとに、推進委員からのメッセージとして各項目に記載いたしました。このなかで、特に要点として紹介したいメッセージが2点あります。17ページ目の「誰もが集まれるものばかりではなく、対象者や内容に特徴のある居場所があっても良いと思います。多様なニーズの中で、福祉的な要素をどう取り入れていくかが重要だと思います」との今後の居場所の展開についていただいたメッセージと、「ちょこっと出先で生活相談はとても良い取り組みだと思います。様々な場所での実施を目指していく一方で、「今回行けなかったのが次回相談したい」というニーズも想定し、ある程度場所を固定化していくことも大事な視点だと思います」というメッセージです。ほかにもたくさん良いコメントをいただいているのですが、この場では紹介しきれませんので、ふりかえり報告書で確認いただければと思います。

最後に、23ページに、推進委員のみなさまから次期計画策定に向けていただいたコメントをまとめていますのでご確認ください。事務局からは以上です。

○**委員長** 今、ふりかえり報告書の内容を、基本目標と重点的な取り組みにフォーカスして簡潔にまとめて話していただきましたが、何か確認や質問、意見がありましたら、

発言をお願いします。基本的には今日の議論を経て完成としますので、確認などありましたらお願いいたします。

○委員 内容は、概ね網羅できていると思います。別のタイミングでお話ししたいと考えていたのですが、武蔵野市では昨年一年間かけて、健康福祉総合計画および地域福祉計画を策定しまして、令和6年4月から実施しています。そのなかで、市が社協の活動を支援していくこと、そして地域福祉計画と地域福祉活動計画が連動しながら進んでいくことを前回の地域福祉計画から体系的にまとめていますので、引き続き協力しながら取り組みを進めていければと思っています。その方針でこれから市民社協が事務局となって策定する第5次活動計画でも進めていただければと思います。

○委員長 ありがとうございます。第5次活動計画にどうつなげていくかは、また後ほど時間を取りたいと思いますので、まずは第4次活動計画の振り返りについて、感想も含めていただければと思いますが、いかがでしょうか。

○委員 ふりかえり報告書の文章量でも読み切きれない人もいると思うので、総括というか挨拶というか、簡単にまとまっているページがあると良いのではないのでしょうか。第4次活動計画は何がうまくいって、何がうまくいかなかったのか、読み手が理解できるように単純に1ページで示せると良いと思います。

○委員長 それでは、各委員から一言ずつ意見をいただいて、それをまとめるというのはいかがでしょうか。どう書くか課題はありますが、冒頭でも末尾でも構いませんので、総括項目があった方が良いと思います。私の意見は、「推進委員からの一言」のページに書いたコメントに集約しているつもりですが、第4次活動計画で一番残念だったこととして、推進期間中に新型コロナウイルス感染症が拡がったことだと思います。令和2年2月くらいから拡がり始めて、マスクをしていない方を見かけるようになるまで3年間くらい空白の期間があったように思います。この計画そのものの課題ではなく、そのような環境下にあったことを前提に考えなければなりません。そう考えると、まさに私のコメントに書いたとおり、「居場所づくりの展開」「さまざまな相談の場と機能の充実」、そして「地域社協の発展」を重点的な取り組みとして位置づけ取り組まれてきましたが、特に居場所づくりのような活動は、対面を禁止されたことでダメージを受けたのは間違いないだろうと思います。地域社協の発展においても、なかなか思い通りの活動ができなかったことは致し方なかったと思いますが、一方で、居場所や地域社協ではオンラインのような新しい展開を使って孤立させないように、できる形で取り組んでいただいたと思います。相談の場においても、新しい生活の課題が見えてきたこともあり、そのような中の一つの取り組みとして、スーパーの軒先を借りて相談を受ける場を作ることができたのは良い取り組みだと思います。コロナ禍だったからできたこともあると思います。来てもらうのではなく、出向いて相談を受けることもそうですし、オンラインでやっていくというやり方もコロナ禍だったからこそ考えられたことではないでしょうか。もっと言えば、オンラインだからこそ出てこられた方もいるでしょう。今まで居場所に参加できなかった人の新たなニーズを拾うこともできたと思います。一方で、アフターコロナの状況下で、改めてどうやって仕切り直していくのかが、新たに課せられた課題であると思います。コロナ禍前に戻ることはできないので、コロナを越えて、私たちがそこで何を学び、次にど

う生かしていくのかを、第5次活動計画で考えていくことが大事だと思いました。自分は「コロナの関係の中で～」ということが印象に残りましたので、まとめの中で書いていただくと良いと思います。それではみなさまに一言ずついただきたいと思います。

○委員 計画を見直す中で、いつも「担い手」と「居場所」という課題がついて回ったと思います。担い手づくりや居場所づくりの切り口は何かを今一度精査して、やり方を考えると、新しい方法がないか検討していく余地があると思います。ただ、先ほどから何度か検討という話が出ていますが、検討だけでなく、実際にどう進めていくかを考えていただきたいと思います。

○委員 コロナがあったということが一つの大きなポイントだと思っているのですが、コロナがあったからこそ、その分違った活動を試行錯誤しながら展開されてきたのではないかと思います。活動の仕方がこれまでより広がったとも思っています。私の地域の地域社協ではハイブリッドで会議を行うことで、今まで興味はあったけど、忙しくて会議に出てこられなかった地域の方でも、「洗濯物を干しながらですが会議を聞いています」という感じで参加するなど、若い方たちが地域のことに関心を持ってくださる事例が増えてきました。せっかく新しい方法ができたので、これからもその方法を活用していきたいです。いろいろな活動の仕方が増えてきたことを踏まえると、私はコロナ禍も前向きに捉えています。

○委員 まずこの議論の中に、地域福祉を代表する方々が出てこられて開催できていることに感謝しています。このコロナ禍の影響は避けて通れなかったと思いますし、そのことで地域福祉が受けた打撃は大きかったので、その総括を記載するべきだと思います。市では地域福祉計画の中で、コロナ禍で社協が果たした役割についてまとめて記載しています。たとえば、生活福祉資金の貸付制度等において、コロナ禍で要件を緩和して困っている市民を助けたことですか、セーフティネットとして、休業・失業者など日常生活の維持が困難な人の日常継続を果たしたこととか、そのようなことを総括して書いた方が良いと思います。2つ目に、コロナ禍で発達してきたZoomやX、動画等のオンラインツールはコロナ禍における副産物かもしれませんが、ICTを活用しながら初めてZoomで会議をする際に、普段ICTに苦手意識を感じている人に対して、VCMがフォローをすることで、意外と簡単にできたと感じてもらうなど、地域の中で新たなツールでのコミュニケーションが発達してきたことも書くと良いと思います。3つ目に、私も、まずは1ページで振り返りの概要を簡単にまとめたうえで、詳細があった方がわかりやすいと思います。まさに23ページの各委員からの一言が、今やっている総括になるとと思いますが、それに加えてコロナ禍の影響や何を成してきたかをまとめる必要があると思います。最後に地域福祉コーディネーターの役割や機能の整備に取り組んできたことについて、国の流れでは重層的支援体制整備事業が進められていますが、その中の相談支援体制の整備のところ、武蔵野市の地域の相談支援体制において、関係機関のなかではなかなか拾えないところを、地域に明るい市民社協が関わることで、地域社協等の互助のしくみの中で、困っている人を見つけてつないでいくことで、大きな相談支援体制の形ができたと思います。これをどう進めていくのかが、第5次活動計画の課題につながるのではないのでしょうか。新たに始まった「ち

よこっと出先で生活相談」など、今実績を積んでいるところだと思いますが、行政と重ならない地域の切り口で困っている人を支えるというところを第5次活動計画で応えて行ってほしいと思います。

○委員 長い間、地域社協に参加していますが、この6年間で振り返ると、地域社協はリーダーが代わりましたが、先代が脈々とつないでくださった取り組みは今でも無駄なく大切に引き継いで活動しています。特に地域の特徴である4部会「障がい者・高齢者・子ども・広報」と各プロジェクトチーム等は今でも大事な活動です。最近では特に、人と人のつながりが大切であると考えて、「ご近所のつどい」の回数を増やして、新しい人とのつながりにも発展しています。若い世代と協力しながら、次のステップを目指します。

○委員 どのような表現が適切かわかりませんが、たとえば「第4次活動計画の達成度は〇〇%」という数値があって、その理由を書くといいと思います。そのうえで、私個人としては、数値自体が何%になったかというより、なぜその評価になったのかが大事だと思います。私は議論している時間が長いと思うのです。議論して一つでも良い話が出たら、明日からすぐにでもやればよいと思うのですが、なかなかそうはなりません。それから、弱みを克服したい気持ちもよくわかるのですが、反対に強みを伸ばすことができないかと思います。たとえば、Xでの情報発信についても、できないから研修をしようとなるのですが、たとえば、Xに投稿できなくても、手紙なら書けるのであれば、手紙を書いてもらえばよいではないでしょうか。もしその文面を発信して良ければ、子どもに頼んでXに投稿してもらえばよいと思います。できないことを話していても気持ちが暗くなるので、できる人にやってもらえばよいと思います。たとえば、担い手がいないという議論が長年ありますが、それでも地域社協は動いていますよね。動きが良くなった、悪くなったというような濃淡はあると思いますが、その中で地域社協の活動を動かしてくれている人たちがいます。強みを見つめながら、計画に時間を費やすより行動に時間を使ったほうが良いと思います。また、今の時代と考えたときに、若い世代の方は仕事をしながら参加しているので忙しいのです。コミュニティ食堂の活動で協力してくれている方々にこの日にやりますと連絡すると、今回は仕事があるからいけませんという返事をもらうこともありますし、15時まで仕事だから16時以降なら参加できますという返事をいただくこともあります。仕事が終わって16時からでもやりたいという意欲のある人たちはいるんです。ただ、それぞれ限られた時間だけでも活動してくれるような方たちのスケジュールを切り貼りしてどう組み立てていくかが課題です。1時間なら活動できる方に3時間や最後の片づけまでいてくださいというスタンスで頼むのは、今後の活動展開として難しいと考えています。時代が違うのでできる範囲で活動してもらおうという視点が大事だと思います。たとえば、吉西福祉の会が6年度から会長を立てないとされましたが、そのような新しい形もありだと思います。それから、私はコロナ禍になる前から地域社協の活動に関わり始めましたが、個人的にはコロナ禍の影響ってそこまで関係なかったのではないかと思います。一時的には活動も落ちたと思いますが、今だいぶ戻ってきています。この間、活動の展開も変わってきていますが、コロナだけでなく、時代の流れ



もあるように思います。コロナ禍は乗り越えなければならない壁ではありましたが、あまりコロナばかりにこだわりたくはないと思いました。

○委員 第4次活動計画を振り返っていると、第3次活動計画で進めた話はどこまで来たのかと気になりました。気になって第3次活動計画を読み返したところ、第4次活動計画で取り組んだことの頭出しは第3次活動計画で出ていました。それが第4次活動計画で、地域福祉コーディネーターや総合相談機能強化、居場所づくりなど第3次活動計画で出ていた課題が少しばかり進んだように思います。地域福祉コーディネーターはあまり進んでいるとは思えませんが、一気に進まないにしても、半返し半返しで進んでいくのだろうと思っています。

○委員 そもそも第4次活動計画の策定委員や推進委員に参加したのは、当時コミュニティ協議会研究連絡会（以下「コミ研連」）の会長をしていたことがきっかけです。これまで福祉のことに特別関心があったわけではないので、いまだに福祉とは何かと聞かれたら何と答えるだろうと考えています。いろいろな計画がありますが、委員が集まって進捗を振り返る取り組みができたことは素晴らしいことではないかと思っています。第1次から第3次まではなかった推進委員会が、第4次活動計画ではじめて取り組めたので、そのことをまず評価していいと思います。正直、推進委員会の内容をどうまとめるか心配でしたが、ふりかえり報告書という一定の成果ができて良かったと思います。第5次活動計画の策定委員の方たちには、このふりかえり報告書を活かして進めてほしいと思います。それから、新聞に書いてあったのですが、日本はいわゆる少子高齢化をどう解決するかが一番の課題だと言います。第5次活動計画のときには1歩でも2歩でも進むと良いと思います。あるいは、継続は力なりと言いますから、あまり大きく変わらなくとも、地道に1歩でも前進できればよいと思います。

○委員長 各委員の意見を受けて、事務局からコメントはありますか。今いただいた意見は振り返りですので、これからさらに、次の活動計画にどう反映させるかというお題があるのですが、現時点でのコメントをお願いします。

○事務局 委員のみなさま、意見をいただきありがとうございました。元々、推進委員会で取り組んできたのが、「ステップごとの振り返り」ということで、これまで2年ごとにステップ1、ステップ2のふりかえり報告書を作成しています。各報告書を出す中でも、計画の進捗管理やできていないことを指摘するのではなく、報告書を出すことで、地域活動をしている方の背中を押すような作りにしてきたという前提があります。ですので、これまでの各報告書では、まずステップの総括をまとめたうえで、推進委員会でご発言いただいた内容をもとにしたメッセージを落とし込んできました。6年間のふりかえり報告書についても、それを踏襲するような流れとすると、まずは計画全体の簡単な総括をしたうえで、各項目についてまとめていくという作りになると思います。この総括については、先ほど各委員よりいただいた意見をもとに作成するイメージになると考えています。これまで活動計画の策定はしたもの、進捗管理や振り返りを委員会の場で行ったことが初めてでして、試行錯誤のなか、委員長をはじめ、各委員のみなさまに協力いただきました。事務局から提供する地域の情報が十分ではなかったこともあるかと思いますが、みなさまから意見をいただいて報告書ができたと思っています。そのような経緯も含め、みなさまから総括の意見をいただき

ましたことに感謝いたします。最後に一点、委員からいただいた達成度については、盛り込めるかどうかは悩みどころであります。委員も仰るように、人によって尺度が定まりづらいため、どのように報告書に落とし込むかは悩んでいるところです。

- 委員長** そういったところも含めて、第5次活動計画への宿題としてもよいと思います。最近流行りのアウトカム（事業の達成度）評価をどうするかですとか、この計画を進めることによって、地域や社会がどう変わったかが重要になってくるので、そのような点の評価をどうするのかを考える必要があると思いました。

### （3）第5次武蔵野市民地域福祉活動計画策定にむけて意見交換

#### ①継続して取り組むべき内容や課題について

- 委員** 第4次活動計画の94ページに、当時の策定委員から振り返りに向けたコメントが掲載されていまして、委員の意見にもあったように、数値での評価ができたほうが分かりやすいのですが、それをしやすい計画の作りになっていないため、質的（内容）による振り返りを行うしかないのではないかとされています。いろいろな考え方があると思いますが、これから第5次活動計画を作る際に、前期の第4次活動計画がどうだったかという達成度や何が足りなくてやり残しているのか等の振り返りから始めていく必要があると思います。一般的な示し方として、第4次活動計画の骨組み別に、「○（取り組んできた）」「△（少しはできたが不十分だった）」「×（全然取り組めなかった）」くらいの緩い評価をしてはどうでしょうか。コメントは報告書に記載されている文章でまとまっているので、そのまま活用してはどうかと思います。たとえば、このような分類で評価して、次は△や×をつけた項目の取り組みを伸ばしましょうと話し合っただけのが分かりやすいと思いました。やはり、やっていることをどう伸ばしていくか、重点的な取り組みという骨組みがあるので、そこを基準に何が足りないか、何が求められているか、市民社協やボランティアセンターの役割として何をやっていくかを、新たな委員に引き継げると良いと思います。あと、行政計画である地域福祉計画と表裏一体で連動しながら進めていくことは過去の歴史でも確認していますので、行政で追えないところを地域の力で進めていくという形で連動できればと思います。個別具体的ではありませんが、地域福祉をどう進めるかという点で検討していただければと思います。

- 委員長** 委員の発言にもありましたように、次にどうつなげるかが後半のテーマになります。この推進委員会は本日で最後ですが、この委員会を踏まえて、第5次活動計画の策定委員会が進んでいくと思いますので、どのような形で進めていくか、また、第5次活動計画に向けて、第4次活動計画から何を残してつないでいくか、意見をいただきたいと思います。それでは、導入として事務局から説明をお願いします。

＜各委員に第5次活動計画の概要を記載した資料を配付＞

- 事務局** 配布資料は、第5次活動計画策定委員会委員（以下「策定委員」）選出にあたって、団体等への相談の際に使用しているものです。第5次活動計画の計画期間は令和6年度が策定年度であり、令和7年度から令和12年度までの6年間は活動期間となります。策定委員会のスケジュールとしては、7月3日から第1回第5次活動計画策定委員会を開催し、月1回の頻度で計9回の開催を予定しています。その間に、地域

懇談会を開催します。第4次活動計画策定の際には、地域社協ごとに運営委員会規模で開催したのですが、今回は、東部・中部・西部の3圏域で1回ずつ、計3回を8月中に実施予定です。圏域ごとに地域社協や関係団体の方々に出席の呼びかけを行い、いただいた内容を踏まえて、9月以降の策定委員会で第5次活動計画策定を具体的に進めていくこととなります。併せて、地域社協別の地域福祉活動計画を2～3月頃までに策定いただくよう支援していく予定です。最後に、策定委員案に全16名の委員構成案を記載しております。現在各所に相談中のため、確定のものではございませんが、記載の構成案に基づいて依頼を進めています。事務局からの説明は以上です。

○委員長 7月から計画の策定に入っていきますが、委員の意見にもあったように、第5次活動計画の前提には、第4次活動計画の振り返りを基礎としながら、何ができて何ができなかったというところを確認していきます。その確認方法としては、委員が仰ったような○△×のような基準とするか、それ以外とするかはこれから検討することとなりますが、いずれにしても原点になることは間違いありません。この推進委員会には、第4次活動計画の策定委員が多くいますので、第4次活動計画推進委員から第5次活動計画策定委員に何を引き継ぐのかといった内容の側面、どうすると見やすい・見にくいといった構成の側面など、いくつか意見をいただきたいと思います。まずは、私からひとつお話ししますが、市の計画との連動について考えなければなりません。武蔵野市では、行政計画である地域福祉計画を策定してから、地域福祉活動計画を作るという流れになっていますから、行政計画を踏まえて作らないといけないということ、且つ、踏まえるならば連動性を考えなければならぬので、市の各部署と市民社協がつながって、一体的に動かしていけるかどうかのポイントです。また、現在、国では重層的支援体制整備事業が謳われていて、今後のトレンドとなるのは間違いありません。重層的支援体制整備事業を念頭に置きながら、「包括的な総合相談」「参加支援」「地域づくり」の3つの大きな柱をもとに、市民社協がどこを担うのか、また市民のみなさまにどういった役割を果たしていただくのかをしっかりと考えながら作っていくことが大事になると思っています。

○委員 この活動計画は、「市民地域福祉活動計画」という名前でもあり、計画の主役は地域住民ですよね。振り返りについての議論でも達成度の指標があった方が良いと発言しましたが、地域住民が行うには、見てわかる単純さが大事だと思います。その結果、達成度合いが10%しか進まなかったとしても、地域住民が自ら取り組んで10%も進めば評価すべきではないでしょうか。たとえば、4割達成できたとして、人によって、それができたと思うか、できなかったと思うか感覚が違うと思いますが、それはそれで良いと思います。また、前回の計画を踏まえて、重点的な取り組み目標を3つ掲げていますが、柱は1つで良いと思います。私は地域活動のキーになっている「居場所づくり」が最も大切だと思います。居場所を作ろうと言ったときに、広報ができないとか、SNSをやった方が良いとか、第4次活動計画の振り返りでも検討したことと同じような課題が出てくるのです。SNSの活用などの手段を課題としてしまうと何を達成したいのかがわからないので、中核となる柱を1つ決めて、目標達成の障壁となり得る課題に対して徹底して取り組んだ方が、客観的に見て、今回の活動計画では居場所づくりを達成したいのかと分かりやすいと思います。具体的な目標を立てるなら、

居場所を50個つくることを目標としたら、活動期間終了時に達成したか、していないかわかりやすいと思います。ただ、そこから行政計画との連動性を持たせるとというのが難解になるかもしれませんが、そのようなわかりやすいイメージが大事だと思います。

○委員 私の地域で新しく入った方から、「コミセンと地域社協の違いって何ですか」という発言がありました。それをわかりやすく説明してほしいと言われたのですが、そこにいた運営委員が誰も回答できなかったのです。それは一番大きな問題だと思います。地域社協に関わる人が、どこが違うかきっちり応えられるようにしなければ、ダメだと思うのです。このことを解決するのが根本だと思います。

○委員 地域社協の方から「コミセンと地域社協は車の両輪なのだ」という話を聞いたことがあります。両方で地域の人をつながりづくりも含めて、地域を盛り上げていく役割があると思います。地域社協は福祉に特化していると思いますし、コミセンは福祉以外の問題も取り組む必要がありますが、地域づくりという共通課題に取り組むときには、両方に大事な役目があると思います。双方が取り組んでいかないと地域づくりは進まないのではないかと思います。

○委員 コミセンの後に、地域社協ができたのですから、コミセンだけでは達成し得ない目的があるのだと思います。必要ないなら、地域社協はできなかったわけですから。そこが何なのだろうと思っています。

○委員 一般的な地域をまとめる組織として、町会がありますが、町会について考えると、何らかの提供できる場所があり、何らかの人間関係を作る仕組みがあると思います。機能的には、人間関係を作っているのが地域社協であり、場所を貸しているのがコミセンなのだと思います。コミセンには2つの要素があって、1つは貸館機能で、もう1つは自ら企画し運営するという地域社協に近い機能です。地域社協の場合は、企画運営という自主的な機能しかないのに対し、コミセンの場合、5割以上が貸館機能を占めています。そのようなバランスの違いがあると思います。両方の機能を合わせると、ほかの地域でいう町会のようなようになると思います。町会と違うところというと、町会費を取られないところでしょうか。個別に地域社協とは何かと聞かれるとうまく答えられないのですが、両方に関わっていると、それぞれの良いところを、都合よくうまく活用することができます。町会に代わる機能と考えたら、2つの要素が必要で、地域社協とコミセンという2つの組織が必要なだろうと思っています。

○委員長 それぞれ立ち上がった経緯が違うと思いますが、活動していくなかで見えてきたものが重なってきたというのが実態ではないかと思います。先ほど、委員から「コミセンと地域社協は両輪だ」というお話がありましたが、次の段階として、両輪の在り方について、もう少し言及する必要があると思います。地域の中で地域社協とコミセンは大事な組織だということは、誰もが認識しているところだと思います。だから両輪という説明で納得がいくのだと思います。ただ、両輪とはいっても、左右なのか前後なのかで関係性が異なります。お互いに主体性があるので、活動計画上でこうすべきとは言えないと思いますが、こうなった方が良いという提案をすることは良いと思います。少子高齢化する社会の中で、コミセンが果たすべき役割は何か、また地域社協が果たす役割は何かを考え、第3次や第4次の活動計画ではあまり記載できてい

ない、武蔵野市をどう良くしていくのかというところについても、そろそろ整理してもよいと思いました。ほかにも地域社協とコミセンの関係性について意見がありましたらお願いします。

- 委員 コミセンは自主三原則「自主参加・自主企画・自主運営」があり、統一することではなくても、地域と支え合う場所として大切だと思います。
- 委員長 組織としては別団体なのですが、目指すところが似てきたのではないかと思います。ここからは委員長ではなく、一委員の意見として聞いていただきたいのですが、「コミセンがあるなかで地域社協ができた経緯」には理由があると思います。たとえば、私は地域の中で福祉課題と向き合う住民団体が求められたからだと考えると自然ではないかと思います。一方で、コミセン自体もメンバーの高齢化などと向き合わなければならない状況が出てきていると思いますので、外部から見て思うところとしては、地域社協とコミセンのお互いがwin-winで発展していくために、手をつないだ方がよいのだと思います。手をつないだ良い関係をつくるためには、どうしたらよいかを第5次活動計画で語る必要があると思います。また委員が仰るように、語るだけではなく、実際に行動してみることも大事だと思います。
- 委員 私の地域のコミセンは順調に進んでいて、他のコミセンで聞くような担い手不足なども特別課題になっていませんし、恵まれている方だと思っているので、あまり困っていません。
- 委員長 良い関係、良い実践が各地域に広がっていくと良いと思います。こうしてくださいというものではありませんが、こういった関係性もありますという事例などを紹介して、第5次活動計画の中で、いくつか実際に取り組めると良いと思います。地域社協とコミセンの関係性もそろそろそのような段階に入ってきていると思います。
- 委員 ただ、コミセンは自主三原則に則って運営しているので、たとえば、地域社協が書庫を置かせてほしいと言ったときに、認めてくれるコミセンもあれば、難しいと断られるコミセンもあるかもしれません。地域社協の拠点として使わせてくれるかの判断はコミセンごとに違います。
- 委員長 コミセンが地域社協等の団体に拠点機能を貸すことによって、地域にどのようなメリットがあるのか、単に団体だけのメリットというだけでは違うかもしれませんが、団体が拠点を置くことによって、地域が豊かになったり、関係性が深まったりということがあれば、真似してもよいと思う地域も増えるかもしれません。そういったメッセージを第5次活動計画では発信したいです。
- 委員 コミセンを運営するコミュニティ協議会の主たる役割は「館の管理」と「地域づくり」です。その地域づくりのために、いろいろな事業をしてくださいと言われていきます。ただ、コミセンで事業をやると言っても、簡単にできるわけではないので、地域に根を張っている団体の力を借りて、地域づくりをしていくことがすごく大事だと思っています。たとえば、趣味の団体がコミセンを利用していたとして、人のつながりはできるかもしれませんが、それが地域づくりにどれだけ寄与しているかという、あまり見えてきません。また、団体の構成によって、市民で活動していればまだよいですが、申請者以外は全員市外在住ということもあります。コロナ禍以前、コミセンを夜間利用する団体は演劇関係の団体が多かったのですが、ほとんど市民ではない演

劇関係の団体が、どれくらい武蔵野市の地域づくりにどうかかわっているのかと考えてしまいます。そういう点では、地域社協は地域に根付いているとわかっていますので、そういう人たちの力を発揮できるようなコミセンであってもよいと思います。私の地域の地域社協でも、コミセンを使って子育てひろばや高齢者サロンなどの活動をされています。どのようなことをするのが地域福祉なのかわかりませんが、地域社協でいろいろな活動をしてもらえると非常に地域づくりに良いと思います。地域社協とコミセンがもっと密着してもよいと思っています。私の地域の地域社協とコミセンは、お互いに持ちつ持たれつでやっていると思います。中には部屋を貸してほしいとか備品を貸してほしいと相談しても断ってしまうコミセンもあると聞きますが、私たちはそのような関係ではないと思います。黙々とお互いに地域づくりを進めています。最近、コミセンでは地域フォーラムを開催して、地域内にある団体の横のつながりを作ってもらいたいと言われていました。意外と行政はコミセンにいろいろなことをおろしてきます。行政から縦割りの下りてきている物が多く、たとえば、いっとき避暑地（現「クーリングシェルター」）ですが、協力するといろいろと報告を求められるなど、行政から頼まれる事務が段々増えているように思います。そうは言っても、地域によっては、コミセンのスタッフも高齢化しているので、やる人はいないのではないかと思うのです。地域によっては若い人が入ってきているところもあるようですが、特に私の地域では高齢化が進んできていて、役員の成り手も減ってきているので、担い手不足は悩みどころです。お互いの良いところを出し合って、どう支え合って地域づくりをしていか考えていかなければならないと思います。

○委員 コミセンをイメージしやすいのは文化祭だと思っています。地域によって異なるかもしれませんが、コミセンは文化祭を主催するときに、基本的にコミセンがオリジナルで行っている作業はほとんどありません。地域の団体に声をかけて、展示をしたりイベントをするのは関係している諸団体で、コミセンが行う役割は貸館業です。一方で、地域社協はたとえばイベントで焼きそばをつくらせたなら、地域社協のメンバーで作ります。良いか悪いかの話ではなくて、コミセンはそういうしくみなのです。自主的な活動をするのが難しいのは、時代の流れもあるかもしれませんが、地域社協という団体ができてからかもしれませんが、より貸館業に向かっているのが現況ではないかと思います。コミセンも本来はコミュニティづくりが目的にありますが、館を維持管理するのもそれなりに負荷がかかるので、どうしてもそこにマンパワーを使ってしまう。

○委員長 改めて伺うとコミセンは特殊な役割があるとわかりました。一方で、地域社協にとって、とても大事なパートナーでもあります。これだけのメンバーで話していても、意見や立場が分かれるということは、改めて地域社協やコミセンが深い団体なのだと思います。地域性もあり、個人によってとらえ方も違うということが見えてきましたので、このことは第5次活動計画で、改めて意見交換をしながら盛り込んでいければと思います。コミセンとの連携のほかには何かありますか。本日の振り返りのなかで、先ほど居場所づくりが大事という意見がありましたが、みんなの居場所から、もう少し趣味性や個別性の高い居場所が求められていくことは間違いないと思いますので、そういった展開の在り方やサポートの仕方を、第5次活動計画で反映できると良

いかと思いました。みんなの居場所というのは、誰にとっても良い場所ですが、一方で、誰にとっても中途半端とも言えると思いますので、エッジが立った居場所も増やしていきたいですが、趣味性が高い居場所は、「公共性」や「地域づくり」に行きつきにくい側面もあります。市民社協が支援する意味として、趣味性の高い居場所にどう福祉的な要素を担保できるかの検討は必要です。また、武蔵野市の地域性を踏まえたうえで、今後どのような居場所を推進するか整理する必要が出てくると思います。

○委員 私の地域はあまり居場所と呼べるところがありません。最近、90歳代で、車いすで移動している方がいて、行くところが限られるというので、2か月に1回程度、自分の家に招いて、一緒にご飯を食べています。車いすで出かけるという人も結構いるので、そのような活動が広がっていくと良いと思います。ただ、車いすで自宅に上がっていただくので、いろいろな方に自分の家でやってというのも難しいと感じています。

○委員長 大きな居場所だけでなく、小さい居場所をたくさん作るイメージで、そのような展開も今後検討していくと良いと思います。今後の居場所の作り方は、武蔵野市の地域性によっても変わると思います。一軒家での展開のやり方もあると思いますし、大規模住宅ならば、その公共スペースを使うやり方もあると思います。ほかに第5次活動計画に申し送りしてほしいということがあれば意見をお願いします。

○委員 達成していることを改めて計画する必要はないと思うので、その辺の整理が必要だと思います。まったく新しい課題ばかりになってしまうと連動性がないので、ABCの評価など、「これは達成したから引き継がなくてよい」とか「これは第5次で引き続き取り組んでほしい」などの整理があると良いと思います。また、このステップ1、2、3はなんとなく違和感がありました。このステップはあまり段階的になっていなかったのだから、たとえば、取り組むための目標1・2・3という並列にして、どこから取り組んでもよいとしてはどうでしょうか。

○委員長 ステップについては、小さい目標を立てて、達成感を可視化できるようにということが目的だったと思いますが、ステップ1をやらないと2に行けないように見えてしまうことは設定の仕方として違うという意見だと思います。そこは根幹にかかわる点だと思いますので、第5次活動計画では検討する必要があります。もう一点大事なことは、達成していることに対する取扱い方です。ある程度できていることを外すか、達成していることについても、集合管理するかなどの考え方をどうするか整理が必要であると思います。達成している課題なのに、あたかも新しい課題としてもう一度取り組むのもおかしな話ですので、無理のない形で整理が必要であると思いました。事務局からステップの考え方について、意見はありますか。

○事務局 ステップは第4次活動計画ではじめて取り入れたものです。検討の過程で、ステップ1・2・3を2年区切りとしましたが、当初は項目によっては1年で終わるもの、3年かかるものなど、必ずしも2年で区切るものではなかったと思います。計画のわかりやすさを重視した結果、2年ごとに各ステップに取り組んで6年間で達成することとしました。委員から指摘いただいたように、必ずステップ1から順に取り組むものではないことは、策定当時から認識されていた点であると思いますが、計画の見せ方としてこのような形になってしまいましたので、第5次活動計画では整理がで

できればと考えています。またステップを作った経緯については委員長のお話のとおり、いきなり6年間のゴールを目指すのではなく、少しずつ達成感を得られるものとしたという視点から取り組んだものため、形自体を否定するものではないと思います。計画を推進するのが地域住民のため、達成感が得られるような計画の作りを意識していきたいと思います。また、複数の委員から出た、読んでもらえるようになるべくシンプルなつくりを意識した体裁という点も検討が必要であると思っています。

○委員 ぶりかえり報告書の重点的な取り組みに、ぶりかえたことや、やらなければならないことも載っているので、これを踏まえて、課題を出して取り組んでいくという方向性をつければ、ある程度進む方向が見えてくると思います。

○委員長 今回まとめたぶりかえり報告書を基軸にしながら、第5次活動計画を進めていただきたいと思います。私も引き続き第5次活動計画の策定委員会に参加することになりましたので、第5次活動計画の基礎は、推進委員会で話し合った第4次活動計画だということをつないでいきたいと思います。計画策定の時から各委員のみなさまには協力いただいております、7年間お世話になりました。引き続き策定委員会に協力いただく方など、それぞれどのようなかかわり方になるかわかりませんが、引き続きお力添えをよろしくお願いいたします。それでは、最後に副委員長からお話しいたいて終わりにしたいと思います。

○委員 みなさまにまとめていただいて、きちんと振り返りもすることができました。あとはこれをどう生かしていくか、できるだけシンプルに市民社協としてやるべき柱がいくつかあると思いますので、取り組んでいきたいと思います。私はNPO法人の補助金の審査会にも参加していますが、NPOが事業をやっていくのに、基本となる柱は何かを見えています。NPOの方々には、その中核となる柱を決めてくださいと申し上げています。きちんと柱に沿って取り組んでいると、ステップを超えて、新しいきっかけを見つけてという順で取り組むことができます。この地域福祉活動計画もそのように取り組んでいければと思います。

○委員長 それではこれで、令和6年度第1回武蔵野市民地域福祉活動計画推進委員会を終了します。みなさま、ありがとうございました。

(午後8時40分 閉会)

---